

新編水滸畫傳

初編

五

21  
875  
5







神書佛書醫書國書  
繪本平本新古賣買  
手遊いふく法々々  
河内文了了々々々上

後河内三休指申入  
河内屋孫玄術

新編水滸畫傳卷之五

東都

曲亭主人編譯

土三六



趙員外重く文殊院を修

魯連へ鴈門縣の申明亭にて。その時金老ハ急遽  
人をつまはこれ則涓別の客店より。路費をふくその艱難を  
故郷へ慕くせらる。金老あてそありる。その時金老ハ急遽  
袖を引く僻淨日退く。声を低くしていふ。提轄いふ。膽を  
りれば世をも人をとも怕るものなる。今起くは榜文を張掛け。一十貫  
の賞錢を出し。比才を捉んとん。又まらむや。比才が年甲相貌  
采心く榜の面子家。い。倘それ。い。ちをやく。又つけちめいせ  
む。心地做公人。捉まらひ。危し。信。ち。お。これ







鴈門縣  
金老魯達  
伴

竹編史許畫傳卷之五

樂系ノ清畫傳卷之五





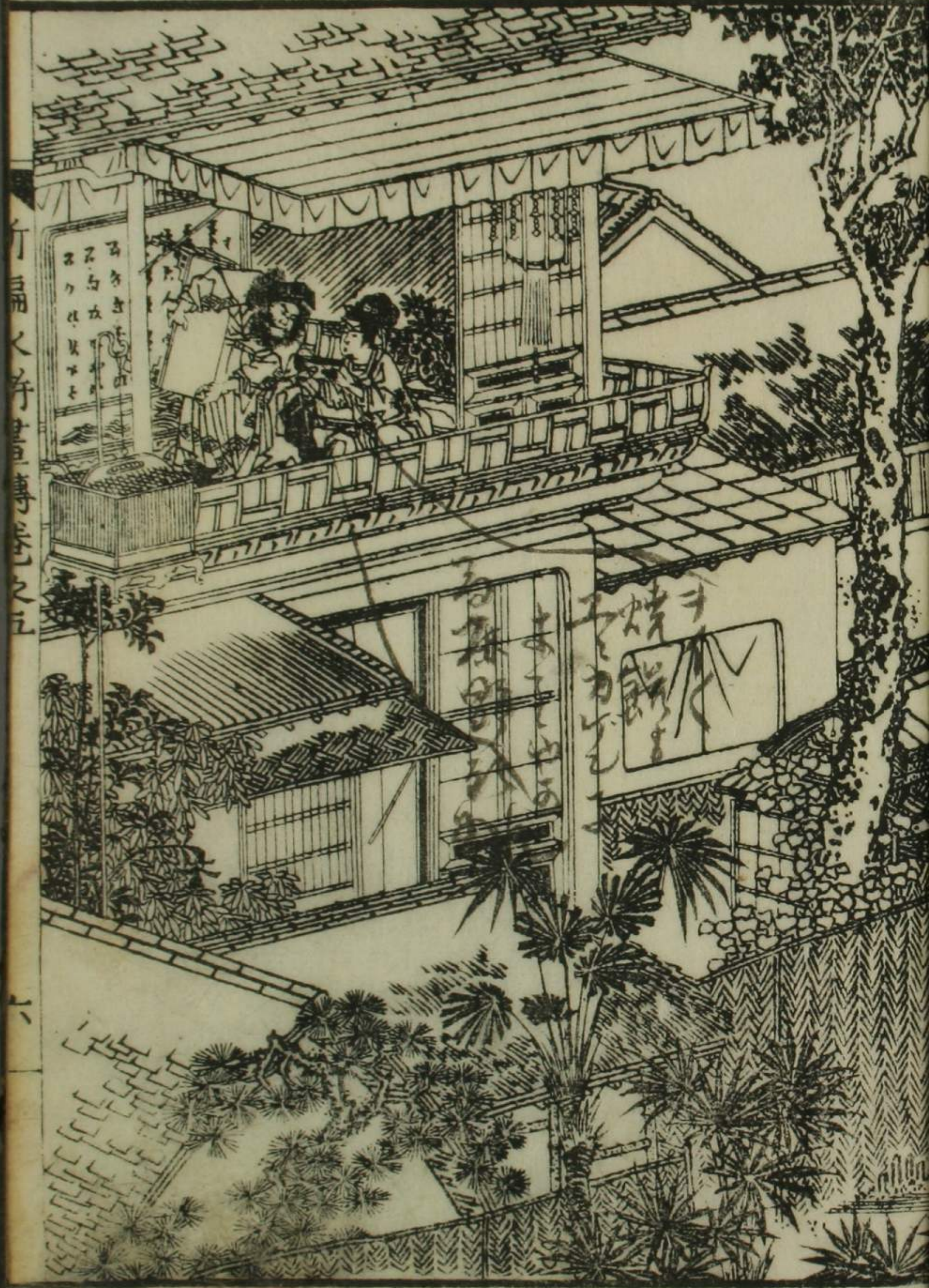




出まゝ。その賊を捉逃し。と。呼ぶ。魯達の懸よりこれをみて。ま  
 り。と。急小骨子を怒起し。既み飛り。打  
 教さんとす。金を老連忙し。抱住。牙ふり。も。か。く。と。す。か  
 ら。彼。み。ゆ。き。縁故を同諦。ち。べ。權。潜。さ。く。お。や。り。と  
 い。ひ。も。あ。く。ま。む。り。樓。上。より。走。り。下。り。彼。官。へ。め。き。さ。る。く。は。不  
 と。り。み。到。王。何。中。人。私。言。り。馬。上。の。人。忽。地。や。く。と。ら。ち。笑。ひ  
 壯。使。も。み。下。知。さ。ま。の。衆。皆。さ。ろ。を。得。く。舊。の。路。へ。退。き。入。り  
 ぬ。が。く。彼。官。人。め。記。さ。る。く。馬。より。下。り。禮。み。入。り。あ。の。金。老。の  
 魯。達。を。樓。上。より。呼。迎。之。彼。人。對。面。さ。ま。る。小。彼。官。人。魯。達  
 を。こ。ろ。く。ま。り。身。を。翻。し。再。拜。し。義。士。提。轄。の。拜。禮。受  
 る。人。う。り。う。り。魯。達。奇。し。金。老。對。ひ。この。人。誰。か。る。を。れ

へ。い。ま。ご。相。識。さ。る。か。た。の。い。ま。ご。か。ん。慇。懃。さ。る。と。同。ハ。金。老。答。へ。これ。の  
 便。女。兒。翠。蓮。を。愛。あ。り。れ。こ。の。趙。員。外。み。く。お。り。さ。る。う。り。今。郎  
 君。み。身。を。引。つ。れ。と。み。ま。ま。い。故。の。女。兒。は。才。と。樓。上。の  
 あり。酒。喫。あ。せ。を。莊。客。ま。の。さ。る。を。み。て。又。お。か。め。員。外。の  
 告。す。わ。せ。し。秘。み。その。密。ま。あ。る。ん。と。疑。く。これ。を。制。せん。為。よ。大。勢  
 を。召。つ。き。ま。ま。い。と。い。も。それ。が。潜。み。提。轄。なる。を。使  
 え。せ。し。ま。り。彼。仕。使。も。を。母。屋。に。帰。し。只。む。り。禮。へ。入。り。あ  
 ひ。一。五。十。を。挽。示。せ。魯。達。も。原。来。ハ。錯。謬。み。く。あり。つ。る。の。と  
 い。ひ。も。さ。ぐ。め。く。ら。安。堵。り。その。時。趙。員。外。の。魯。達。を。再。び。樓。上  
 再。請。登。し。又。酒。宴。を。設。け。さ。ま。が。饗。食。さ。せ。只。官。賞。歎。し。以。み  
 中。それ。が。平。日。提。轄。の。豪。傑。なる。を。み。て。渴。望。さ。る。を。せ。し。





竹編人許世尊卷之五



趙員外疑々  
魯提轄を捉へし

為年三書を  
計六ヶ月かん  
末しし用ひん  
思ひし知る

新編九清書作卷之五

五



たりと見し。室もこの月夜さしといふ魯達言笑てこれ  
 粗鹵漢子みく。既も北きき罪過を犯せり。志は  
 對面を許さる。却てこの僥倖ふこそ  
 答へ。鄭屠を打殺し。始末おちもかく物ぐる。趙員外す  
 感激し。互小兵法を討論し。半夜の酒を酔を竭して。その夜  
 次の日早飯も果す。趙員外魯達を對し。いふや。  
 この度へ世を潛穩便の地みあ。こゝ本宅のこゝろ。十里  
 地名を七賢村といふ。今日より提轄をこの莊院に  
 舍匿さる。このまゝといふ。魯達は。大に  
 頼み。趙員外。俄頃人を  
 七宝村に走らせ。二匹の馬を牽き。まゝにせ。一匹は魯達を上せ。

止む。上り。莊客も魯達の行李を扛擔せ。晌午のころ  
 立出。七宝村に降り。おけへ金老翠蓮。八門辺に停立す。志は二  
 人を目送り。さら。趙員外。魯達を本宅小伴ひ。酒食  
 を備へ。管待し。さや。五七日を過せ。一日友人書院より  
 来り。おち。相語。折しも。金老慌忙。走来。前日  
 それ。提轄を樓上。酒を。あり。耐員外。大  
 勢を將。搦。聞き。故人。人を退け。い  
 些の疑を生。風聞。あり。二四個の倣公人  
 近き。鄰。坊。情由を問。備  
 事。不慮の疎失。い。潜。魯  
 達。脱去。趙員外。且。



沈吟してしやう。今提轄を放遣しきへ居るの面皮を捨て。こが  
 志念を空す。又苗おくとまへ却て仇と成るものも出来なん。それし  
 つらかりよ。提轄この難を避く身を安く。万が一も災あせ  
 ざる謀あり。志れども提轄肯志あるじとふを魯達はあへん。これ  
 星死すべきの人あり。りをむくの宿をひく。この急難を脱する  
 あへん。いそげ肯せざるべき。とて説ふ。只願頼せよ。一  
 へ趙員外もいそげられしころありちま。この欲り別りやあへん。ま  
 こを去る中二十餘里あり。一坐の山あり。便五臺山と号く。山上小  
 一箇の寺あり。これを文殊院と喚做せり。原これ文殊菩薩の  
 道場なり。寺中五七百人の僧あり。その頭なる智真長老と。これ  
 げし。莫逆の交をふ。の柳の先祖許多の金銭を施し。

彼寺に納む。つをりて。今第一の施主檀越き。因て  
 そねり。この年来一人を出家させ。文殊院の僧侶とあさん。を  
 びひ豫て五花度牒（度牒五ツあり）を買おき。出家させん。人哉  
 索し。提轄落髪し。和尚と成る喜を承け。一切の雜費し。  
 それ。これを備辦べ。いよこの謀。後ひもあへん。とてし。  
 魯達情由をばし。あり。これ縦を脱去し。つは里  
 を頼へき。とて員外のいふ。後中ま。世を送る。を  
 涼念。便茶。とて。員外の庇を被る。そのやき。を  
 の幸ひ。又剃髪の上。えり。希と。ころ。み。こ。回。答。を  
 ぶ。員外。とて。その夜。衣服を縫。禮。物。盤。



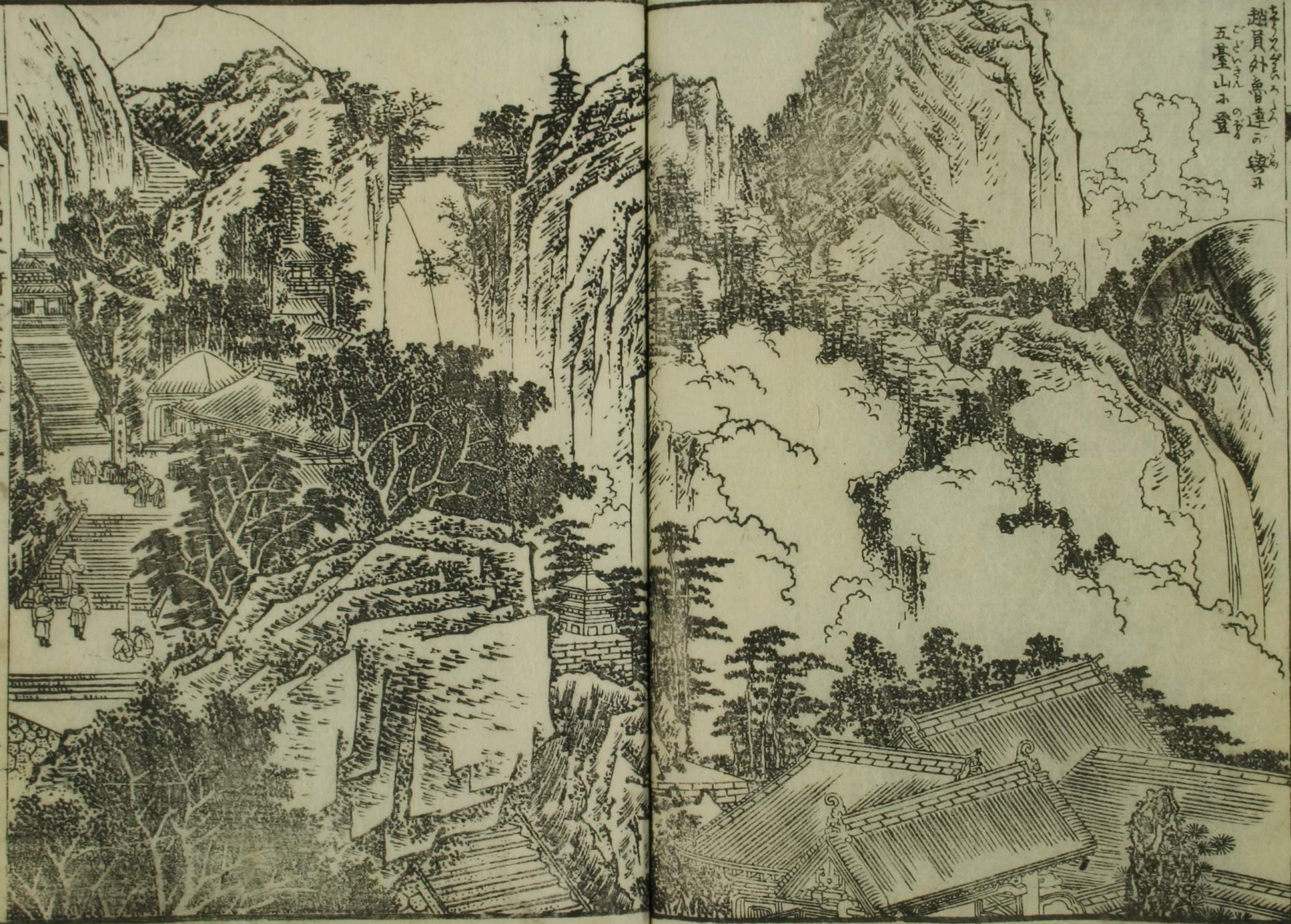








越員外魯連の鑿子  
五臺山小登





くもそろりげん。かゆ人を剃度志あり。久くずり山門の奥ふ  
 るべし。ふりく深会あり。やうけして凍且の長老の宜く。彼檀越  
 趙員外の表穿あり。形状醜く。固辞ふべき。ものく且疑念を  
 休ふ。それらむ彼向後を考べし。宣ひく。香を焼禪椅より。口より  
 呪語を誦し。定再入り。暫時ふり。回す。衆僧並對し。宣  
 ふ。や。彼を剃度せん。や。止むべし。この人上の天正星不應。心地  
 剛直なり。時下か。薄命なり。とくも。久後却く清浄なるべし。その云  
 果を得る。み至り。く。おのの。乃ぶ。と。あ。ふ。く。この言を忘  
 れど。い。い。ぶ。う。む。ひ。當。を。俟。へ。と。ふ。ま。の。衆僧。あ。ほ。こ。を  
 實語とせん。す。も。長老の護短。か。私語。あ。ひ。ぬ。さて。長老。の。趙員  
 外。木。を。あ。う。ひ。方。丈。再。指。し。齋。食。を。俵。さ。ぶ。ぐ。これ。を。管。待。り。あ。ま

員外ハ食後人をり。僧鞋。僧衣。僧帽。袈裟。拜具の物料を買せ。  
 一。あ。日。み。し。く。唯。伎。悉。く。調。ひ。ぬ。う。う。く。智。真。長。老。吉。日。良。辰。を。擇。み。  
 鴻鐘を鳴させ。法鼓を撃せ。法堂の内。大衆を集。會あり。一  
 程。五。六。百。箇。の。諸。僧。人。整。く。齋。と。と。一。加。袈。裟。を。被。さ。て。法。堂。の。下  
 小。ま。あ。り。く。合。掌。礼。拜。し。う。れ。く。東。西。兩。班。并。侍。立。せ。り。その。肘。施。全。納。  
 員外ハ銀子と表裏の信香。禪衣。僧とある人。剃髮。一。奉。を。拜。し。を  
 取出し。法堂のま。再。拜。を。表。白。宣。疏。仏。の。の。り。を。も。果。く。二。人。の。行。童  
 魯達をいざあひ。法堂の下。到。バ。維。那。の。傍。魯。達。が。巾。幘。を。陰。せ。額。髮  
 を。け。く。九。つ。再。縮。を。手。膜。再。扱。む。時。淨。髮。人。一。周。遭。を。り。て。ま。へ。て。剃  
 を。り。や。が。く。鬚。鬚。を。剃。人。と。ま。ま。ハ。魯。達。ハ。い。う。う。め。り。げ。ん。く。え。り。ん。  
 一。の。此。の。鬚。を。剃。し。く。これ。再。入。を。ま。う。し。つ。ま。く。再。を。大。衆。口。を。掩。く



足を芳ふ時再長老法座の上ありて高き偈を念じて宣く。

寸草不留 六根清浄 與汝別了 免得單競

長老偈を念トをりて一喝しひりれば浄髪人只一剃髪再髪鬚一

根も残さずと剃落しり。法座の上ありて出く法座の上より

上り。法名を賜らん子を請りせ。長老空頭度牒を把く。

又偈を説く宣く。

靈光一點 價值千金 佛法廣大 賜名智深

記の僧を以て度牒再伴の法名を寫させり。又長老を書

させ。法衣と袈裟を賜ふ。智深を袈裟を賜ふ。智深を袈裟を賜ふ。

の亦再せり。長老を以て偈を説く。宣く。又長老を書

記一々 五戒を宣く。一其の室に師依ます。二其の佛法に師奉ます。

三其の師友に師敬ます。四其の足に師歸ます。又五戒の一小教生を要

され。二其偷盜を要され。三其邪淫を要され。四其貪酒を要され。五其

妄語を要され。六其綺語を要され。七其大衆を要され。八其

字を要され。九其記覚を要され。十其答を要され。十一其

再受記を要され。十二其趙員外に衆僧を雲堂に請ます。香を焼齋を依

へ大小の職事僧人再上賀の禮物を饋し。衾に監寺の魚智深を師足

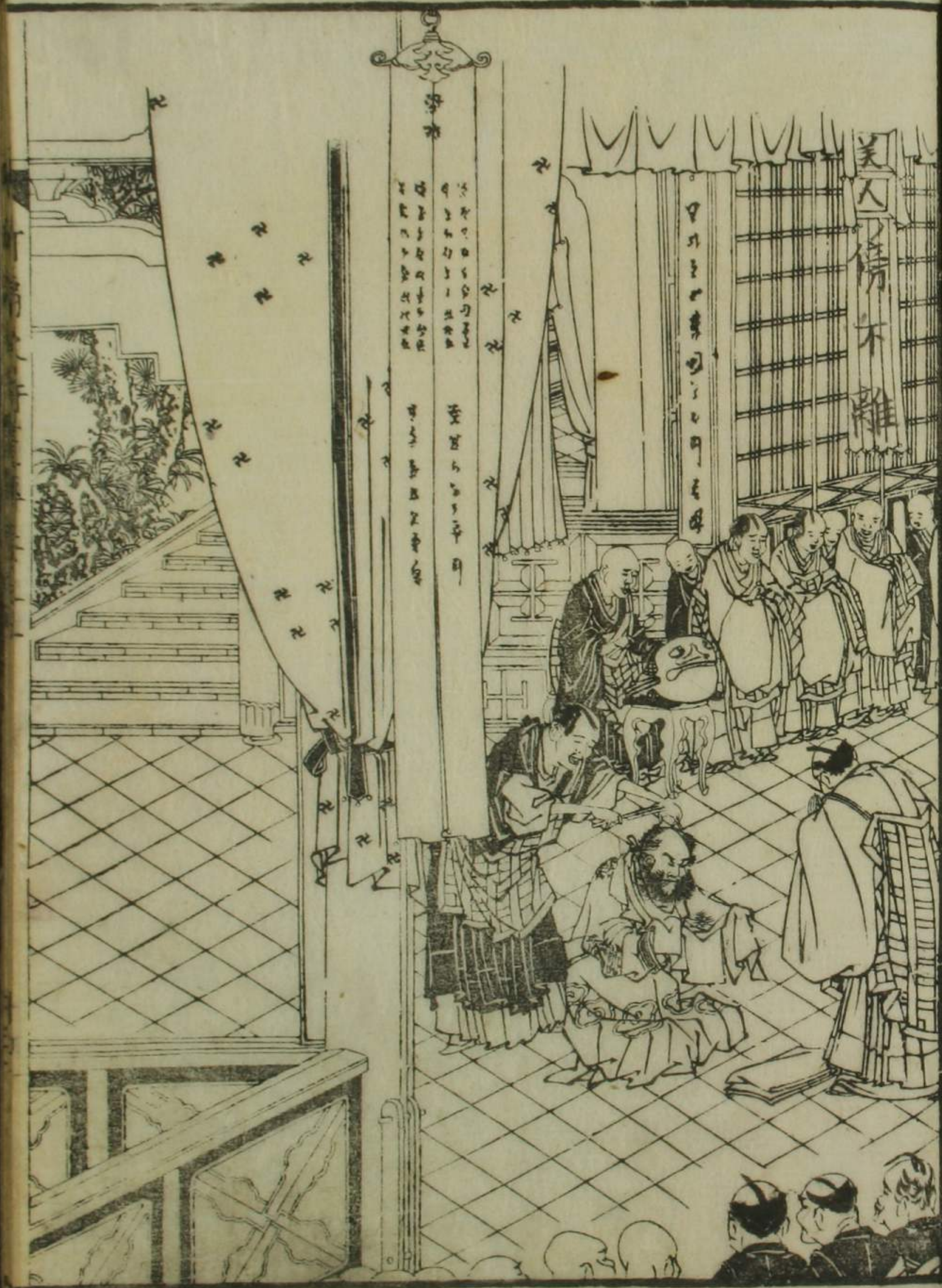
師等の衆僧に相見せ。中より誘引し。僧堂の背後あり。叢林の中

れ選佛場再位のせり。かゝる趙員外に宿願を成就し。まると

飲ひ。次の日長老は別を告ぐ。遂に下向再赴く。智真長老は

衆僧を以て山門の外より送り。員外別再臨く。長老は





趙員外  
文殊院  
魯達  
身度  
子度

飲酒不知飽

新編水滸畫傳卷之五

美人傍不離

高貴不買女

此乃...  
...

此乃...  
...





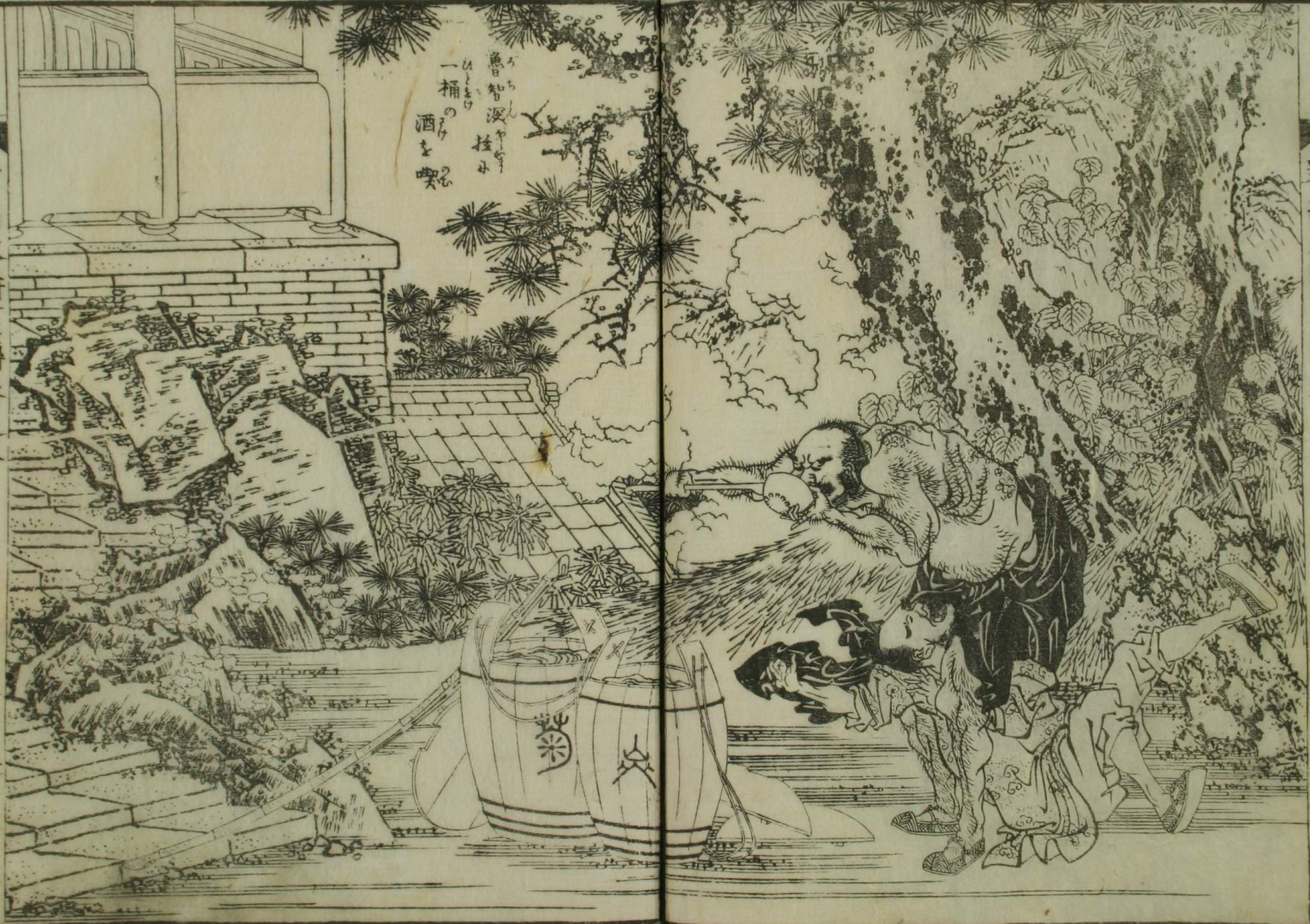












魯智深  
一桶の酒を喫

新編水滸畫傳卷之五



より閃と花下り。猿臂を伸しく。匾祖を下と會住足を花しく  
 撲地と踢。漢子の地上。不控と作。志む。一記もあり。ほも。魯智  
 深。ハハも。こを。こも。ち。笑。ひ。こ。支。桶。の。酒。を。亭。子。上。に。提。ま。り。鏝。子。を  
 拾。り。息。も。せ。ぜ。喫。や。母。肘。を。接。さ。き。一。桶。の。酒。を。喫。場。一。彼。漢。子  
 を。又。く。く。い。ひ。や。汝。明。日。寺。に。ま。あ。り。錢。を。と。ま。此。の。虧。を。も。さ。す。る  
 こ。あ。く。と。又。ハ。漢。子。ハ。や。く。起。上。り。眉。を。頓。腰。を。麻。ま。ま。ハ。尙。長  
 老。こ。の。子。を。あ。ら。一。食。ハ。い。の。ち。る。卒。ま。ち。つ。ん。と。お。り。ハ。ハ。は。は。し  
 く。且。魯。智。深。ガ。勇。力。ハ。怕。ま。さ。く。と。ぐ。く。回。答。も。せ。ん。残。り。し。酒  
 を。二。桶。に。分。け。酒。の。賞。ハ。給。り。及。ハ。い。も。只。こ。の。子。を。人。に。語。り。あ。い。そ  
 と。い。ひ。け。く。擔。桶。を。挑。ひ。鏝。子。を。握。り。も。く。飛。び。こ。く。小。止。ま。り。り  
 魯。智。深。ハ。その。後。影。を。目。送。り。り。呵。く。と。ち。笑。ひ。ハ。は。ハ。い。り

ある。こ。半。時。む。り。み。り。亭。子。上。を。去。り。出。酒。氣。ハ。就。せ。く。松。乃  
 樹。間。を。徘徊。す。り。酒。い。ふ。湧。上。り。大。に。酔。て。足。の。踏。と。ころ。を  
 去。り。直。襪。を。把。り。褪。膊。き。兩。隻。の。袖。を。腰。の。間。に。纏。着。て。脊  
 上。の。花。繡。十七。回。は。智。深。ガ。背。上。に。を。露。出。し。り。や。り。て。山。に  
 登。り。ま。る。その。光。景。い。の。み。と。ち。ま。ハ。頭。重。く。脚。輕。く。眼。紅。り。面  
 赤。く。前。に。合。後。に。仰。き。東。に。倒。西。に。歪。浪。と。踏。く。こ。く。風。ハ。尚  
 不。鶴。の。た。い。く。擺。く。搥。り。て。水。を。出。る。亀。小。似。り。天。ハ。天。宮。を。指  
 しく。天。蓬。元。帥。を。罵。り。地。ハ。地。府。を。踏。く。催。命。判。官。を。拿。へ。と  
 正。五。尺。裸。形。赤。體。の。醉。魔。君。火。を。放。人。を。殺。す。花。和。尚。も。ハ  
 つ。魚。一。肘。に。二。人。の。門。子。を。遠。く。を。入。り。大。に。敬。馬。き。竹。批。を。せ。り  
 去。り。出。智。深。を。遮。留。く。い。や。り。汝。佛。家。の。身。子。と。い。く。五。戒









竹園八并



魯智深大  
醉衆人  
乱打

寶經入清畫傳卷之五

二十



やを多智深ちしんふれおれふせとて喝まめへの魯智深ろしんいいくく醉まりくとて  
 ども却かえりこれ長老ちやうろうなりと認まりれへ棒ぼうを撒ありきてはりて長老ちやうろうよ告つ  
 中ちゆうさらやう。智深ちしん今日こんにち些ちの酒さけを喫くりて。彼輩かはいを咬くりてはりはり  
 衆人しゆじん却かえりて罵ののりて打うちてせしよりてはりて己おのれを好えむを聞き聞き争ま  
 且かつびの長老ちやうろうふらふら察さつして人ひと々々としりれの長老ちやうろうせしくく宣のたまふはりて  
 何事なにごともも面おもてを看みて怒いらをおさめをやく退まりて歇やすみへりて訟うたふ  
 りもあらば明日あした慢まんく地ぢはまべきならうと定さだまりて魯智深ろしんあらはりてはりて  
 ぞと。それが一いつり一長老ちやうろうの面おもてをみてあらはりてはりて老驢らうりゆうを定心じやうしんとし  
 殺ころさんののをならせしくくおおりてのことしりてはりてはりて長老ちやうろうを侍ぢ  
 者しやを呼びて魯智深ろしんを扶けて禪床ぜんじやう上の上に伴せしてあらはりてはりて智深ちしんははりて到いた  
 とやと。高軒かうけんあらはりて睡ねりてこの耐許たしや多たの徒た身しん長老ちやうろうのはりて

且かつ團座だんざ一いつくく稟まうすはりて前日ぜんじつ我われ們ら魯智深ろしんをい剃度ていど志しすはりて  
 せして凍こまらせしてをあらはりても聽きめらりて今日こんにち果はりて  
 かくのでし。一いつり一彼野猫かのねこみまりて悪僧あくそうを養食やしきおしてはりて  
 清規しやうきを乱れし。一いつり一野猫ねこみまりて居あまりの人のを安やすめしてはりてとし言い  
 語ごを斎して。一いつり一苦くくく志しけしみまりて長老ちやうろうの宣ふはりてこれは往さき  
 来きたりて也なり。彼か今いまハハ世よの囉哩らりありてもも後のちみまりてあらはりてはりて正ただ  
 果はりて得えんとうく檀越だんてつ趙員外ちやうゑんの面をみてはりて這こ番ばんハハ且かつ容ゆる恕じゆせしみま  
 又またれは明あくし彼かを呼びて以後いごを信じて戒いむべして宣のたまひて慈あいむ心しんを守  
 常つねよも返かへりて衆僧しゆそうも呆れててはりて冷ひや笑わらひて退まりてけしてはりて次つぎの日  
 早あさの齋さいも果すはりて長老ちやうろうハハ侍者じやうしやみまりて命いのち魯智深ろしんを呼びてあらはりてはりて侍者じやうしや命いのち  
 を宣ふはりて坐ざ禪ぜんの處に到りてもも智深ちしんいいまも起おきてはりてはりて志しすはりてその

新編水滸畫傳卷之五







やぐて僧堂ちんぼうより多へり。凡酒を飲のむむ歡を盡つくまべつべ常云  
 酒さけふくくりを成おし。酒さけふくく事ことをおしこりり。小膽こたんをおし  
 これを飲のむハ漫まんよ大膽だいたんとおる。況いは勇ゆう敢かん大だい夫ふうをおや。彼かの魯ろ知ち日じ深しん再さい  
 度酒戒どしうかいを守まもりや否いな。その次つぎの巻まきを讀よ得えくまふん。

新編水滸畫傳卷之五 畢

○曲亭主人編譯水滸畫傳初編画工刷人目次

繡像

葛飾北齋



卷一	山口清	藏刀	卷四	山口清	藏刀
----	-----	----	----	-----	----

卷二	山口半四郎	刀	卷五	酒井采	助刀
----	-------	---	----	-----	----

卷三	酒井采	助刀	備書	葛飾	知道
----	-----	----	----	----	----

懷寶年代記

折本  
 此年代記ハ大化元年より今に至るまで年号標記  
 中々六十年ほど又改定し其代々始武將助教を主  
 裏ハ三世相新雜書日本の圖一宮付并郡付未を委生也

春宵	繪本壁落穂	小枝繁著	復讐	繪本東嫩錦	小枝繁著
奇譚	前編 五冊		奇話	全	五冊

新編水滸畫傳	全部百冊 追々	曲亭主人編	春宵	繪本壁落穂	小枝繁著
			奇譚	後編 五冊	當寅冬出来



○丙寅發行曲亭主人新編著述目錄 續梓書坊不一

四天王剽盜異錄 全十冊 勸善常世物語 全五冊

三國一夜物語 全五冊 盆石血山記 中本 全二冊

敵討誰也行燈 中本 全二冊 新編水滸畫傳 初編 十冊出未

小説園雪 曲亭主人著 全本十冊 〇前編五冊 寅十二月出未

大坂心齋橋轉苦町

勝尾屋六兵衛

江戸日本橋通三丁目

前川彌兵衛

江戸麹町平川町二丁目

角丸屋甚助

文化算二乙丑年秋九月

書肆

其多吟 石印 寒更止  
柳云 每刺 必蝦 控  
第就 一情 知高 不  
多張 弄了 醉涉 南  
奔走 醉士



